

各委員意見集約

1. 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性

【目標Ⅰ 自ら学ぶ意欲をもって、主体的に社会に関わり、新しい時代を生きる力を育てる】

基本方針1 新しい社会で生きる力の育成(原案8～14ページ)

No	委員	意見等	担当	回答等
1	大橋	コロナ禍の中、教員研修にオンライン研修など工夫して取り組まれていることを評価します。	教育支援課	次年度以降も継続して実施して参ります。
2	高嶋	施策2 関係機関との連携を深めるために、また、対面実施の意義を高めるために、研究・講習会を教育・福祉・医療といった多職種・多機関で、公と民間の立場を超えて、交流しながら実施できると良いのではないかと？	教育支援課	令和4年度については、特別支援教育CO及び特別支援教育担当教諭を対象に、石狩市の福祉行政に関する知識の習得に関する研修(石狩市保健師、石狩市相談センター職員を講師として)を実施する予定です。今後につきましても、学校のニーズを踏まえ、様々な分野における知識習得のための研修を実施して参ります。
3	高嶋	施策3 学校での外国語の授業以外にもALTを活用しながら、学校内／外、対面／オンラインで外国語を使用する機会をつくることのできる良いのではないかと？(関連:施策20・24)	学校教育課	整備した教育用のICT環境の活用により様々な取組みが考えられます。各学校と連携し、可能性を模索して参ります。
4	向田	施策4 理数に関心度が高まっているにもかかわらず、コロナの影響がCRT標準学力調査が低下していることが残念。	次長班	令和2・3年度、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言及びまん延防止措置の期間等、学校においては文科省の「衛生管理マニュアル」に則り、感染症予防対策を講じ、制限の多い中で教育活動を行う必要がありました。理科における「児童生徒同士が近距離で活動する実験・観察」は、対策を講じてもおお、特に感染リスクの高い学習活動とされ、学校では通常の実験・観察とは違う形で授業をしてきました。このことは、全国・全道すべての学校で当てはまることから、標準化されたCRT学力調査の結果に影響を与えたとは考えづらいのですが、実験や観察という理科にとって重要な学習活動が制限されたことによる影響を出さないように、さらなる対策を講じて理科教育を行ってきた2年間でした。
5	向田	施策5 小中学生の情報機器に対する環境は目覚ましいものがあり、情報を入手するスピードが格段に上がっています。自ら考える力や洞察力が失われないような利用方法を望みます。	学校教育課 次長班	ご意見のとおり、ICT環境の整備が進んでおります。引き続き、効果的な活用に向けて今後も各学校と連携し、取り組んで参ります。
6	高嶋	施策5 端末の持ち帰りを想定した場合、学校内でのみ使用するとき以上に、情報モラル教育や端末に関するルールメイキングが重要となる。スマートフォン・SNSの正しい使い方講座とも結びつきが強いと思われる。(関連:施策8・23)	教育支援課	次年度については、家庭内における電子メディアのルールづくりに活用していただけるよう市教委として「家庭のルールづくりシート」を作成し、保護者向けの啓発を進めて参ります。

7	大橋	児童生徒一人一台端末が授業での活用に取り組まれていることを評価します。 タブレット端末の活用(持ち帰り等)では、各学校で苦労されていると思いますが、今後更なる効果的活用を目指して取り組まれることを期待します。	学校教育課	今年度末を目途に常時持ち帰りを進めることとしており、AIDリルも含め、効果的な活用方法を検討しているところです。今後も各学校と連携し、取り組んで参ります。
8	向田	施策6 コロナ終息後は広く社会体験活動の機会を引き続き継続されることを望みます。	学校教育課 次長班	様々な体験を通じて、将来の夢や目標を見つけ出せるよう今後も社会と繋がる体験学習を続けて参ります。
9	高嶋	施策6 学校教育に協力いただける企業・団体・人材を各学校レベルで継承していくのではなく、町レベルで共有できるような仕組みを整備しながら、各学校のキャリア教育を支援していけると良いのではないかと(関連:施策10)	学校教育課 次長班	企業、団体から教育委員会に広報があったものについては、都度、学校に周知しております。今後も他課と連携し、情報を共有し、広く周知して参ります。
10	向田	施策7 手話は石狩市の独自の取り組みかと思えます。これからも多くの子供たちが手話を通じて思いやりの心を育てて欲しいと思えます。	学校教育課	手話を一つの言語として理解し、障害のある人も、ない人も平等である「暮らしやすいまち」を目指し、引き続き学校の出前講座等を通じて多くの児童生徒が手話を学べるよう取り組んで参ります。

基本方針2 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進(原案15~17ページ)

No	委員	意見等	担当	回答等
1	向田	施策8から10を通じて、地域と一体化したきめ細かな子育て環境を整備していくことが大切と思えます。石狩市は地理的に縦長の広大なエリアを持つため、地域性にも格差があり大変かと思えますが、非常に前向きに取り組んでいると思えます。 これからも引き続き取り組みの継続を望みます。	総務企画課 次長班 学校教育課 教育支援課 社会教育課	<p>【総務企画課】 コミュニティ・スクールの充実を図るため、旧石狩市域への「地域コーディネーター」の配置を推進するとともに、各地域の特性や自主性を尊重しながら、運営をサポートして参ります。</p> <p>【学校教育課】 経済的理由で学習機会を損なうことがないよう、今後も経済的支援を行って参ります。</p> <p>【次長班】 生きる力を育むため、学力向上は重要な要素です。その定着に家庭学習の習慣化は欠かせませんが、全国学力・学習状況調査の結果等から、本市の小中学生はその時間が多いとは言えません。「強化週間」の設定を含め、一人一人の実態も考慮しつつ、本市で提唱している「学年×10+10(分)」の時間の定着を目指し、児童生徒だけでなく、保護者・地域にも働きかけを継続していきます。</p> <p>【教育支援課】 次年度以降も継続して実施して参ります。</p> <p>【社会教育課】 これからも子どもたちの健やかな成長と地域教育力の向上、更には地域の活性化を図るため、地域の教育資源の発掘や関係機関の連携協力体制づくりに取り組む。</p>

2	高嶋	<p>施策8 スクリーンタイムの長時間化対策のためにも、小学生ではなく中学生をメインターゲットにした学校外の取り組みの充実が求められるのではないかと。(関連: 施策9・19)</p>	<p>社会教育課 次長班</p>	<p>【社会教育課】 子どもの生活習慣改善に向けて、市P連、次長班と連携し、どのタイミングでの取り組みが重要か、また、各年代での取り組みの検討など進める。 【次長班】 校長会議・教頭会議で長時間のスクリーンタイムが及ぼす影響とその対策について情報提供を行い、学校から保護者・地域住民に継続的に情報発信・啓発を行うよう働きかけていきます。</p>
3	大橋	<p>市内全校にコミュニティスクールが組織されたこと、スタートされたことを評価します。 今後さらに充実されていくことを期待します。 スタートしたばかりですが、現在抱えている課題等があれば教えていただきたいと思っております。</p>	<p>総務企画課 社会教育課</p>	<p>【総務企画課】 「社会に開かれた教育課程」の実現のためには、地域と学校の連携・協働の取組として今後「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進が重要であると文部科学省は示しています。 具体的な取組としては、コミュニティスクールにおいて、学校や地域等が目標やビジョンを共有し、学校と地域の協働による活動の指針となる目的や目標設定、効果的な手段を協議し、計画することになっています。その後、協議結果を踏まえ、地域学校協働推進員等のコーディネートのもと、地域人材参画による地域学校協働活動を展開することになります。 令和3年度は、コロナ過の影響もあるなかで、学校目標やビジョンを共有されたと聞いています。今後は、各学校や地域の状況に応じた協働活動の目的や目標設定、効果的な手段の協議が進むものと思われるので、情報共有し運営をサポートして参ります。 【社会教育課】 R2年度スタートの厚田学園や石狩八幡小・石狩中については、すでどのような取り組みが必要か学校と地域での熟議が行われ、地域の特性にあわせた事業を展開しているが、R3年度からスタートした学校においては、コロナの影響で会議が中止され熟議できていない状況にあるため、各校のCS活動の基礎となる「何が必要か、何を取り組むか」の設定が必要。</p>
4	高嶋	<p>施策10 「協働」の含意が双方向性にあることから、「地域→学校づくり」のベクトルだけではなく「学校→地域づくり」のベクトルの両方を意識した取り組みになっているかを検証していく必要がある。例えば、地域の活動に児童生徒や教職員が協力・参加することなどが挙げられる。(関連: 施策6・17・22・24)</p>	<p>社会教育課 次長班 学校教育課</p>	<p>【社会教育課】 これまで行われてきた学校支援活動も保ちつつ、地域の教育力の向上や地域活性化を図るため、地域の協力・理解を得ながら、段階的に地域学校協働活動の支援に務める。 【次長班】 令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の活動に児童生徒が参加することが難しい状況にありました。「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、地域の教育資源の活用による教育活動の充実が欠かせません。その視点から、学校運営協議会等で、地域の教育資源をどのように活用していくか、学校と地域の「協働」のベクトルが双方向のものとなっているかなどを熟議していくことは大切なこととあります。</p>

基本方針3 学びをつなぐ学校づくり(原案18～23ページ)

No	委員	意見等	担当	回答等
1	高嶋	施策11 各学校のホームページのコンテンツの充実だけではなくアクセス数の増加もあわせて考える必要がある。いくらコンテンツが充実したとしても保護者や地域住民からのアクセスがなければ意義が薄れてしまう。	次長班	ご指摘の通り、多くの方に学校ホームページを閲覧していただき、学校の方針や児童生徒の様子、学校からのお知らせをお伝えすることは大切なことです。そのためには、学校ページの更新を適切に行い、アクセスすれば新しい情報に接することができると思っただくことが重要です。その意味において、各校、若干の学校間の差はあるものの、更新はよくなされているととらえています。市教委として、今後も校長会議等の折に、更新を促進する呼びかけを継続して行っていきます。
2	高嶋	施策14 スタンドの策定・運用にあたっては、児童生徒一人ひとりの特性や状況に配慮しながら教職員が柔軟に活用できるものにしていく必要があり、これにより一方的な当てはめや画一化につながらないように注意する必要がある。	次長班	「生活、学習環境、家庭学習時間等の小中でのスタンダード化」については、各校の児童生徒の実態を把握しながら、生きる力を育む上で欠かせないものとして、その項目として設定しています。例えば、「あいさつ」「返事」「立腰」「ことば(づかい)」といった項目です。また、石狩市は、確かな学力の定着に向け、「学年×10分+10分」の家庭学習時間を推奨しています。それらの指導に当たっては、目指すべき目標として、それぞれの項目の大切さを指導しながらも、一方的な取組にならぬよう、一人一人の生活や学習状況に応じた丁寧な指導をしています。
3	向田	相変わらず不審者情報が多い中、子供たちの安全確保を最優先に、将来のある子供たちを地域で見守ることが出来るように、広く情報発信を行い地域住民との関わる機会を継続して行っていただきたい。	教育支援課	令和4年度についきましても、不審者情報の発信、こども110番いしかりサポート、石狩市少年指導巡視活動、スクールサポーター派遣事業等の事業を継続し、情報発信や地域住民との連携を図りながら子どもたちの安全確保に努めて参ります。
4	向田	学校における働き方改革を計画的に進めていただく一方で、子どもたちの活動に影響が出ないように工夫をお願いしたい。	学校教育課	教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、学校における働き方改革を進めています。従来の業務でICTを活用するなどして効率化できるものはないか、教育活動等においても整理や統合する中で教育効果をさらに高めることはできないかといった視点で、働き方改革を進めています。また、学校評価においては、働き方改革を推進することが、教育活動のさらなる充実につながっているかという観点で点検評価を行っています。

5	高嶋	施策15 働き方改革によって教員の勤務を量的に適切化していくことはもちろん、その先を見据えて、教員の勤務を質的に充実化させて教育の質を向上させていく視点を合わせ持つことが重要となる。	次長班	ご指摘の通り、働き方改革のゴールは教育の質の向上にあります。教職員が生き生きと仕事できる環境整備を進めることが、教育の質を向上させ、子どもたちのためになるという視点を大切に、その推進にあたることが重要です。そのためには、必要で大切な教育活動の精選、ICTを活用した授業改善や業務改善、専門スタッフや外部人材、地域・保護者とのさらなる協働等を視点に、「教職員個々の気づき」と「チームの対話」をベースに着実に進めていく必要がある。
---	----	---	-----	---

【目標Ⅱ 思いやりと豊かな心・健やかな体をもって、多様な人々と共に支え合う人を育てる】

基本方針4 健やかな成長を促す取組の推進(原案24～30ページ)

No	委員	意見等	担当	回答等
1	高嶋	施策17 道徳科に限らず、日常的に学校・授業を公開して、保護者や地域住民が学校に関わる機会を増やし、理解と協力を得られるようにしていく必要がある。(関連:施策10・11)	次長班	令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、学校においても「3密」を回避した上での教育活動の継続が求められた。そのため、授業参観や個人懇談、学校運営協議会、PTA活動等も従来通りの形では実施できなかった。そのような状況においても、学校では保護者や地域住民との信頼関係構築に向け、創意工夫を凝らしながら、これらの活動を継続してきた。今後、新型コロナウイルス感染症に対する新たな知見を取り入れながら、ご指摘の通り、必要な活動はリニューアルさせながら実施していくよう促していく。
2	大橋	授業の中で、「調べる学習コンクール」で図書館が活用されていることを評価します。更なる活用を期待します。	市民図書館	今後も授業の中で図書館の本を活用した「調べる学習コンクール」が定着するよう、各校及び学校司書と連携を取りながらすすめてまいります。
3	向田	新型コロナウイルス感染症の影響で様々な取り組みが行動制限や活動中止になり、子どもたちにも大きなストレスを抱えた毎日を送ることとなりました。そのストレスがいじめや登校拒否などに波及することなく過ごせるよう、関係団体が協力し合い子供を見守る体制をこれからも継続して実施していくことを望みます。	教育支援課	いじめや不登校対策は、早期発見、早期対応が重要となることから、SSW(スクールソーシャルワーカー)の定期的な巡回等により子どもたちの状況を把握し、関係機関と情報共有しながら子どもを見守る体制を継続して参ります。
4	高嶋	施策21 不登校児童生徒の学校復帰や適応指導教室・フリースクールへの接続が困難なケースであっても、中長期的な視点に立って、必ずしも「教育」や「支援」に限定されない継続的な関わりや寄り添いを行うことで、児童生徒本人とその保護者を社会的に孤立させないことが重要となる。	教育支援課	不登校児童生徒の学校復帰や適応指導教室等への接続が困難なケースについては、委員ご指摘のとおり中長期的な視点に立って、必ずしも「教育」や「支援」に限定されない継続的な関わりや寄り添いを行うことが大切だと認識しています。今後も、ケースごとのニーズを的確に把握し対応するためにも、SSWが学校との連携を図り、関係機関との情報共有をして参ります。

5	高嶋	施策22 国レベルでの部活動の地域移行(2023年度～)に備えて、学校部活動に外部指導者を活用する(「地域→学校づくり」のベクトル)だけではなく、地域に部活動の拠点を創出していくこと(「学校→地域づくり」のベクトル)も必要になる。これは運動系部活動だけではなく文化系部活動においても同様である。(関連:施策10)	学校教育課 社会教育課	【学校教育課】 地域の多様な文化芸術環境を一体化することで児童生徒も様々な体験機会が確保できると考えられます。 今後も国の動向を見ながら文化芸術活動の地域移行について進めて参ります。 【社会教育課】 あらゆる取り組みに活用できるよう、地域人材や教育資源の発掘に努める。
6	大橋	子どもたちの「生活リズムチェックシート」の活用、テレビゲーム等の使用に関する家庭でのルール作りの取り組みを評価します。今後もスマホ等の使用について継続した取り組みを期待します。	社会教育課	これまで行われてきた取り組みについて、関係機関(学校、市P連、次長班など)と点検・見直しを行い、今後の取り組みの方向性にちいて協議検討し引き続き取り組む。

【目標Ⅲ ふるさとへの愛着をもち、幅広い視野で新しい価値を創造し、活躍する人を育てる】

基本方針5 学びを活かす地域社会の実現(原案31～33ページ)

No	委員	意見等	担当	回答等
1	大橋	コロナ禍の中、感染対策を徹底して、工夫して講座開催された「いしかり市民カレッジ」「石狩シニアプラザはまなす学園」の取り組みを評価します。	社会教育課	感染対策を徹底しながら、市民のニーズにあった取り組みを引き続き進める。
2	高嶋	施策24 生涯学習の振興にあわせて、社会教育の側から学校教育との連携がもっと意識されても良いのではないかと？他の施策で挙げられている学校教育の課題の解決につながるものも少なくないように思われる。(関連:施策10・11)	社会教育課	地域学校協働活動による学校・地域相互に活動の充実が図られるよう、より一層の連携強化を図る。

基本方針6 ふるさとを学ぶ機会の充実(原案34～35ページ)

No	委員	意見等	担当	回答等
1	大橋	旧石狩小学校の工夫された展示の公開を評価します。今後も「ふるさと石狩」を学ぶ場としての取り組みに期待します。	文化財課	今後も、施設の公開を継続し、「ふるさと石狩」を学ぶ機会の提供に努めます。

2	高嶋	<p>施策27（検索の仕方が悪かっただけかもしれないが）YouTubeやfacebookをすぐに見付けることができなかつたので、コンテンツの充実だけではなくアクセスの充実も同時に追求していく必要がある。（関連：施策11）</p>	文化財課	<p>Googleの検索結果に関与することはできませんが、「いしかり砂丘の風資料館 動画」「いしかり砂丘の風資料館 facebook」などと検索すれば、通常は最上位でヒットします。資料館ホームページのトップページからもリンクを張っております。今後もPR、リンクの増加に努めます。</p>
3	高嶋	<p>施策28 文化・自然遺産の保護・保存の意義を高めるためにも、その活用に向けた取り組みを町内の小中学校・高校などと連携しながら充実していく必要がある。（関連：施策27）</p>	文化財課	<p>学校による資料館見学の対応（学芸員による解説）や、学校への出張授業などを、すでに毎年多数実施しています。今後も、教員との情報交換などを積極的に行うなどし、連携の機会をさらに増やすよう心掛けます。</p>